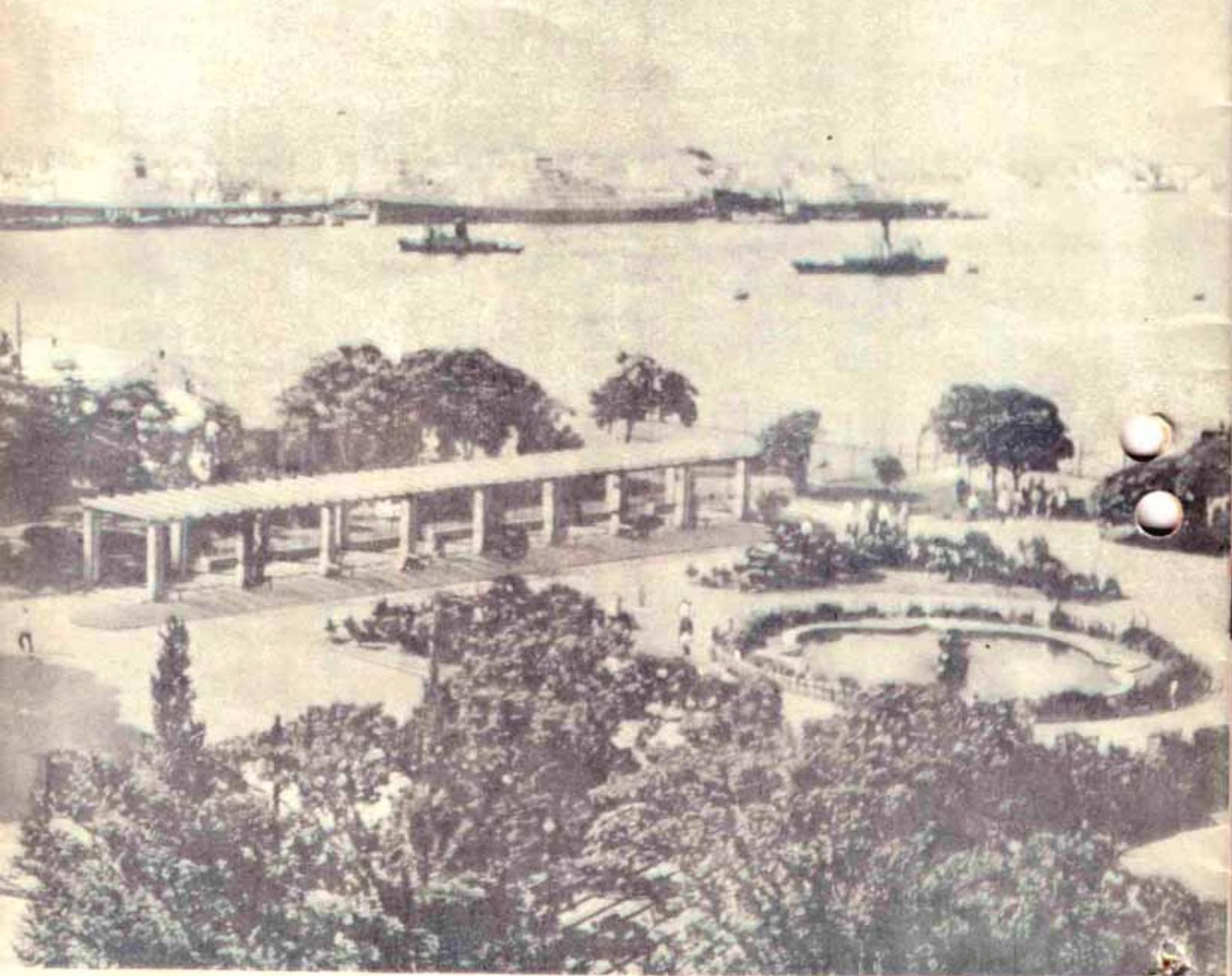


聖徒の道

11月号
1957



末日聖徒イエス・キリスト教会

目次

聖徒の道

一九五七年 十一月号

「伝道部長メッセージ」
 ・浪立ち騒ぐ現世も律法守れば恐れなし
 ・ポールC。アンドラス伝道部長 一頁

安息日…………… デビッド・オー・マツケイ大官長 三

「質問欄」
 水を研つ事は断食の一部…………… 四

「ニュース欄」
 新訳「モルモン経」に就て…………… 佐藤 龍猪 五

盛大だつた中央地方部大会…………… 六

「福音のたより」(各支部報告)
 九月の山形支部…………… 八

名古屋支部の集い…………… 八

岡町支部の活動…………… 九

室蘭支部の報告…………… 九

旭川支部だより…………… 十

東京北支部より…………… 十

「伝道本部より」

転任。任命。新宣教師到着。降任。パプテスマ…………… 十頁

「信仰と証詞」

永遠の愛を知る…………… (那覇支部)石橋 洋子…………… 十二

兄弟への手紙…………… (東京南支部)小林みい…………… 十三

祈り…………… エズラ・タフト・ベンソン長老…………… 十三

「支部訪問記」(札幌支部の巻)…………… 十四

望旬果「服従」…………… 十五

モルモン経物語(二)…………… エマ・マ・ピータソン…………… 十六

編集言…………… 二十

大管長の言葉「神殿の事業」…………… 廿一

十一月の表紙は

横浜港を背景にみる、山下公園。テオドル・ウエルチ

長老撮影

メツセージ

浪立ち騒ぐ現世も

律法守れば恐れなし

伝道部長 ポール シー アンドラス

◎。全世界はぞわめ騒ぐ。

今この記事を書いている時に、全世界はことごとくぞわめ騒いでいるように思えます。万国のすみずみまで行きわたつてゐる種々の状態と、今矢つぎばやに起つてゐる種々の出来事とは人々の氣を失わしめるに足るものであります。

広島と長崎の上に原子爆弾が投下されてからもう十二年以上たちましたが、この間にアメリカ合衆国とロシアとは古い原子爆弾よりもなお強力な、またもつと破壊的な新型の原子爆弾や水素爆弾を造る競争をつつてまいました。この結果として、今世界には全人類を亡ぼしつくすに充分な原子爆弾と水素爆弾があります。またこれらの爆弾を目的物に到達させるための新しく且つ一層うまい方法も既に考案されてゐます。ジェット爆弾機、潜水艦、および大陸間を飛ばす爆弾などが現われて、世界のどんな片すみでも突然なまた徹底的な破壊を与える攻撃に対して安全な又ははびくともしてゐないところは一箇所もないことを少しも疑う余地のないほどに示してゐます。

今日、すなわち十月の十八日にはシリアとエジプトの軍隊がトルコの国境に面して集結して居り、一方トルコの軍隊はこれに対して集結してゐります。アメリカ合衆国がロシアに対して警告を出したところ、今度はロシアがアメリカ合衆国に対して警告を出しました。

この間に、英国は今大急ぎでもつと多くの原子爆弾や水素爆弾や水素爆弾をつくつており、ごく近いうちにもつと多くの実験を行う予定であるといふことです。またロシアもアメリカ合衆国も原子爆弾や水素爆弾の実験をひきつゞき行つてゐます。

征つて、今世界中はこれら数々の実験によつて全世界の空氣や土じよりの汚染されることをおそれてゐます。放射能雨やストロンチウム九十は世界中にひきつゞき増加してゐます。

白血病とか不思議な新しい病気が現にふえてゐる一方、多くの人々は現在世界中にはやつてゐる流感は放射能によつて発生した新型のウイルスのせいだといつてゐます。

◎。教義と聖約」に明示されてゐる。

現在世界に存在するおそるべきすべての状態や、まだこれから起るべき多くの出来事のことごとく「教義と聖約」の第四十五章にはつきりと述べてあります。「教義と聖約」と「高価なる真珠」の日本語訳が今や来る十二月に完成する予定でありますから、「聖徒の道」の読者諸君が皆この二冊の書物にのつてゐる真理が如何に偉大且つ重要であるかを何程か知るようになり、第四十五章の一部分を引用して、今月号にのせるのは適切であると思われれます。

私は此際、佐藤龍猪兄弟およびこれらの聖典の翻訳を完成するために同兄弟を助けてこられたすべての方々々に心から感謝いたします。次に記すのは、佐藤龍猪兄弟の手になる「教義と聖約」の翻訳から引用したものであります。

◎。「教義と聖約」第四十五章。

「汝ら世界の終末来るべきを知ると言い、また天と地と過ぎゆくべきを知ると言う。これにおいて、汝らの言う所はまことなり。

汝らの言うが如くなればなり。されどわが語りたるこれらのことはすべてのこと成就して始めて起るべし。而してわれこれのことを、エルサレムに就きて汝らに語り。而してその日の来る時、或る残れる人々は万国の民の中に散乱すべし。されどこれらの民は再び集め

られん。されど異邦人の時満つるに及ぶまでそのまゝに置かれん。その日、戦につきて聞かん。また戦のうわさにつきて聞かん。キリストは世の終末までこの世に来ることを延ばされたりと。」

(第二十二節―二十六節)

「人々の變は冷やかになり、不法は滿つべし。異邦人の時始まるに及び、暗きに坐する者の中に光輝き出でん。この光はわが完全なる福音なりとす。されど彼らはその光を受け入れず、そは、彼ら光を認めざれば、人の救への故によりてわれにこころを背くればなり。而して、その時代に異邦人の時満つるべし。この時に当り、その世に立ちて而かも地に溢るる懲しめを見終りて後始めて適ぎ行く人々が弟子たちは、世を滅ぼすべき疫病、地を覆うべければなり。されどわが弟子たちは、聖地に立ちて動くことなかるべし。されど悪しき人々の中には、声を擧げて神をのろい死ぬる者たちあらん。また地震も到る處に多くの荒廢は来らん。されどなお人々はわれに向つてこころを頑固にし、互に劍を執りて殺し合うべし」と。

(第二十七節―三十四節)

「さて主なるわれ、これらのことを弟子たちに語りし時彼らこころを惱せり。さればわれ彼らに言えり。汝らこころを悩すことなかれ。そはずべてこれらの事起る時は、汝らに為せる約束の成就するを汝らの知らんが故なりと。この光の輝き切むる時に起ることは、汝らに示さんとする一つのたとえの如くなるべし。汝らいちじくの木を眺めてこれを見るに汝らの眼を以てす。而して、若芽萌え出でてその葉なふ柔かなるや夏すでに近しと汝らは言う。人々すべてこれらること起るを見るその日に於て誠にかくの如くならん。その時人々時すでに迫れるを知るべし。およそわれを畏るる者は、来るべき主の大きいなる日、すなわち人の子の来る徴を待ち望みつつあらん。而して、人々種々の徴と驚異とを見ん。これらの徴は仰げば天にあり、伏して見れば地に示さるべければなり。人々は、血と火と烟霧とを見ん。主の来る前、日輪は暗くなり、月は血と變り、諸々の星

は天より落つるべし。而して残れる人々はこの地に集めらる。」

(第三十五節―四十三節)

「その時、彼等われを求めん。見よ、われ来らん。而してかれら、われ能力と大いなる榮光の衣を着けて天の雲に乗り、すべての聖き天使らと共に来るを見ん。而しておよそわれを油断なく侍たざる者は断ち切られん。されど主の腕の下らんとする前に、まず一人の天使ラツパを鳴り響かせん。然る時は、眠り居たりし聖徒ら雲の中にわれと遇わんために出で来らん。この故に、汝ら穩かに眠り居たらば幸福なり。そは今やわれを見てわが在るを知る如く、汝らはわれに來りて汝らの身も靈も生き、汝らの賴い完うせらるべければなり。而して、聖徒らは地の四方より出で来るなり。それより、

主の腕は諸々の國民に下らん。それよりして主、その足をこの山の上に置けば山は二つに裂け、地はかなたかなたに揺れ動き、諸々の天もまた震い動かん。而して、主声を発すればその声地の極までも響きわたりに、世にある諸々の國民嘆き悲しみ、これまでわらいたる者もその愚を寛らん。かくして悔る者は災を蒙り、嘲る者は焼きつくさるべし。また悪を待ち悔えし者は叩き伐られて火に投げ込まれん。それよりユダヤ人はわれを仰ぎ見て問わん「汝の手と足にある傷は何ぞや」と。その時、彼らはわれの主なることを知らん。そはわれ彼らに向いて「この傷は、わが友の家にありて得たる傷なり。われは擧げられたる者なり。十字架につけられたるイエスなり。われは、すなわち神の子なり」と言えはなり。彼らこれを聞きて、その為したる悪事の故に泣き悲しみ、またそれより己れらの王を迫害したる故に嘆かん。それよりして、異教を奉ずる諸々の民は贖わるべし。およそ律法を知らざる者は第一回の復活に与るべく、こは彼らにとりてかなりの良きことなり。サタンは縛られて、人の子らのところの中に入るべき所を与えられざらん。わが榮光をもて来るその日に、十人の処女につきてわが語りしたとえは成就すべし」

(第四十四節―五十六節)

賢くして眞理を受け入れ聖盃の導きに従い騙されざりし者は、誠にわれ汝らに告ぐ、彼らは伐られて火に投げ入れらるることなくその日に堪うるべし。地はゆずりとして彼らに与えられ、彼らは殖え満ちて強くなり、その子孫らは非を犯すことなく育ちて救いに入らん。主は彼らの中にありてその栄光は彼等の上に輝き、主は彼らの王にして立法者たるべし。」(第五十七節―五十九節)

◎・・・さらば誠命を忠実に守らん・・・

さて 現在のよくな恐ろしい状態では、もつと大きなわざわいさえも将来必ずおそつて来ることが明らかであります。

私たちは福音の回復を語つてゐる第廿八節と、主の弟子たちが聖地に立つて動かないと言ふことを語つてゐる第三十二節を讀んで勇氣を得ることができません。さらにまた、第五十七、五十八、五十九節にあることをよく考えるとき、主の御教えを受けてその教へに忠実に従つてゐるものたちに与えられる主の約束を知つて私たちは皆喜ぶことができます。従つて私たちは皆、私たちの努力を再び新たにして、回復された福音の御教えをことごとくいつも忠実に実行しようではありませんか、もし私たちが福音の律法と誠命に現在従つてゐるならば、この末の世のおそるべき環境の中にあつても恐れする必要は少しもありません。天にましますわれらの父が、この日ののためにあなたたち一人一人を祝福したもうよう心から祈り奉る。

安息日

デビッド オー マッケイ大管長
日曜日は安息日であり、聖なる礼拝の日である。主はわれわれの主を覚え、その誠命を守る時にわれわれを保護したもう。しかし主を忘れ、その誠命をないがしろにするなら、この約束はとり去られてしまふのである。

最初の安息は創造の事業が終了せしめられた時に行われたが、聖典中にその事実が示されている。「こうして天と地と、その万象と

が完成した。神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終つて第七日に休まれた。神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造のわざを終つて休まれたからである。」(創世記第二章一―三節)

日曜日は何故人によつて安息の日として守られねばならないのだろうか。その理由の第一は、日曜日が肉体の眞実の発達と力とに欠くべからざる日であるからであり、われわれはこのことを世界の國の隅々によつて宣べ伝えねばならないのである。しかしこの事以外にもつと考えることのあるのを忘れてはならない。それは日曜日が自ら清浄にし、清潔な衣服を身につけるべき時であるといふことである。清浄が敬神に殆んど等しいものであるといふことは眞理であり、イザヤも旧約聖書の中で「去れよ、去れよ、そこを出て汚れたものにさわるな。その中を出よ、主の器をになう者よ、おのれを清く保て」(イザヤ書第五十二章十一節)

といつており、このことはまた、近代の啓示の中で何回となく繰返されてゐるのである。(教義と聖約第三十八章四十二節、第百三十三章五節参照)

偉大な哲学者ベイコンは「肉体の清潔は、神に対する敬虔を示すものであり、身体を清潔せしめることは、それ自体、道徳的な力の根元であり清い心に次ぐものである」といつてゐる。

教会の仕事に活躍に従事してゐる兄弟姉妹―特に祝たる人たちは日曜日―安息日―について適切な模範を示さなければならぬ。

安息日を遵守すべきであるとの第二の目的は「汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様、祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし。」(教義と聖約第五十九章九節)といふことである。

これは、実に叫びかけし目的であり、神との聖なる交りにより主が常にそば近く居り給ふことを認識するのである。

第三の理由は、安息日を聖く守ることが、シナイの山より全時代を通じてくり返して送られてゐる神の律法であるといふことである。

「モーセはシナイ山に於て、次の如き救えを受けたのである。安息日を憶えてこれを聖潔すべし。六日の間勞きて汝のすべての業を為すべし。七日は汝の神エホバの安息なれば何の業務をも為すべからず汝も汝の子息も汝の僕しもめも汝の家畜も汝の門の中に在る他國の人も然り。」(出エジプト記第二十章八―十節)

いかなる人といえども、自分勝手にこの神の律法を破ることは出来ないものである。最後にこの安息日が一週の最初の日であり、最も大いなる出来事を記念する日であるということである。即ちキリストが復活され、そして復活体をもつて集れる使徒たちにお現われになつたという日である。エマソンは「日曜日には思慮と敬虔とに捧げられた文明の真髓であり、最も高貴な人、社会の関心の的となる日である」といつている。

質問欄

水を断つ事は断食の一部であるか。

「質問」

水を断つ事は断食の一部であるか。

「答」

(この問題についてステーク部長、監督等に対する指令便 中に記載されているものを以下に転載する)

「断食とは」自己の欲望に打ち勝つための克己心を培う一手段であり又霊的な祝福をうけるためになす肉体的な犠牲に他ならない。すべての聖徒は断食日を遵守し断食によりもたらされる祝福に与る様心がけねばならない。一般的に断食とは体内に何物もと入れない事を意味する。断食をしている際に水を断つ事について教義と聖約中には何ら直接の指示が与えられていない。



しかし聖書の中には三つの参照箇所があつてその中で断食期間中に水を飲まないという事が記されている。その三ヶ所の中の二ヶ所は出エジプト記三十四章二十八節と申命記九章九―十八節でこの所でモーセは「パンも食わず水も飲まなかつた」と記されている。

今一つの箇所はエステル書四章十六節でこの箇所ではエスタールに彼女のために「飲まず食わず」の断食をする様、要請した事が記されている。所で断食の精神こそ人々にとぎす、めねはならない主要な事柄なのである。どの様に断食すべきか専門的に倣に入り細に亘つて強調し過ぎてはならないがしかし克己力をつけ靈的なる力を得るために二食を抜き又貧人のために献金する事はいつも念頭に置かねばならない事である。断食の捧物の額は、食した二食分の食費に相当する額でなければならぬし又教会員はこの点について自分の一の場合と同様良心的でなければならぬ。

「質問」

支部の集会でいろいろな責任を果せうとする人々はすべて説教壇よりこれをなすべきであるか。

「答」

集会中に行われるあらゆる活動は室の前方でなされねばならない。というよりはむしろ説教壇の後方でなされる事が望ましい。聴衆の中よりの発表は当を得ていないものであるし、又室の前方の中央にある説教壇の後方以外の所で祈禱をなす事も当を得ていない事である。如何なる集会に於ても人々に祈り等の責任を頼む際指導者は人々が適当な場所に立つて責任を果す事の重要性を再認識する様任意を促す必要がある。



ニユース欄

新約モルモン経について (承前)

佐藤 龍 猪

仮名づかいと送り仮名

第五、仮名づかいおよび送り仮名は共に大
体新仮名づかいになりました。たとえば、な
んぢ(旧)はなんじ(新)、おしへ(旧)は
おしえ(新)、いつしやう(旧)はいつしよ
う(新)、あらはれ(旧)はあらわれ(新)、
たたへ(旧)はたたえ(新)、とほり(旧)
はとおり(新)、おほそら(旧)はおおぞら
(新)、あはれみ(旧)はあわれみ(新)、
いへ(旧)はいえ(新)、かは(旧)はかわ
(新)、また救(旧)は救い(新)、贖(旧)
は贖い(新)、悔改(旧)は悔改め(新)、
考(旧)は考え(新)などしました。この
ほか例をあげればたくさんありますが、新仮
名づかいに就ては皆さんがよく知っています
ので省略します。

誤植、脱落の訂正

第六、旧訳モルモン経にはところどころに
印刷上の技術による誤植、脱落などがありま
したから、この機会を利用してこれらを訂正
しておきました。

表にしてあらわすと大体次の通りでありま
す。

ニーフアイ第一書。

三〇廿五(食欲のルビ)、四〇卅(慄き)、
十〇六(墮落のルビ)、十一〇廿(雅児)、
十三〇十八(去れど)、十三〇廿九(乃ち
此のルビ)、十四〇一(顛れのルビ)、十
四〇十一(彼は)、十五〇一(事共のルビ)
十七〇六(地のルビ)、十九〇十六(予言
者ゼノスの言に依じて—脱落)、廿〇一
(バプテスマの水より出で—脱落)計十
二。

ニーフアイ第二書。

二〇一(逢い—脱落)、五〇卅四(早
やのルビ)、七〇十(天主のルビ)、十〇
十三(シオンに逆いのルビ)、十八〇九(一
汝等帯を締めれば則ち寸寸に破らるべし—
脱落)、廿三〇十(星宿のルビ)、廿三〇
廿二(宮殿は鳴かん)、卅一〇十六(従
い脱落)、卅三〇十(キリスト—
計九。

ヤコブ書。

一〇十三(夫夫のルビ)、一〇十四(名の
ルビ)、五〇一(ゼノフ)、五〇十一(主
人のルビ)五〇十六(働かんのルビ)計五。
モーサヤ書。

四〇三(キリス)、十三〇四(命
令脱落)、十六〇六(給ばざりせば、廿二
〇卅二(二) 卅脱落)、計四。
アルマ書。

一〇十四(モ リヤ)、(五〇廿九(天
国のルビ)、六〇三(義人のルビ)、七〇

十四(天国のルビ)、四〇五(政治のルビ
)、十一〇十九(シュ ブロン)、十三

〇廿七(醒しのルビ)、廿七〇十九(アル
ム)、廿七〇廿五(居りのルビ)、廿九〇
十四(行きて帰りのルビ)、廿九〇十一(一
イサクヤコブ 句読点脱落)、卅〇廿八
(由りのルビ)、卅〇卅四(結果に同胞)、
卅一〇卅七(飲みのルビ)、卅三〇二(研
究のルビ)、卅三〇廿二(撰はば)、三十
四〇卅三(為し得まじのルビ)、卅六〇二
(ヤゴフの補)、卅六〇九(自らのルビ)、
四十〇八(以上のルビ)、四十〇十(時に
至りてのルビ)、四十七〇廿九(民のルビ)
四十九〇十五(戦ふへし)、四十九〇廿二
(ニーフアイ人)、五十〇五(五脱落)、
五十〇十四(名づけきのルビ)、五十三〇
十(勢力のルビ)、五十四〇廿四(書を響
い)、六十〇八(汝のルビ)、六十三〇八
(私のルビ)計卅。

ヒラマン書。

一〇十二(立てしのルビ)、六〇十三(作
りきのルビ)、八〇十四(来り給うのルビ)
十四〇五(汝のルビ)、計四。

ニーフアイ第三書。

七〇十二(加はるに山り)、九〇十(焼き
払はしのルビ)、九〇十五(我は父天にあ
り)、十二〇十三(世のルビ)、十四〇十
八(樹のルビ)、十七〇四(イスラヘル)、
十七〇廿二(給ひのルビ)、十八〇九(亦
のルビ)、十八〇廿九(飲むのルビ)、

十九〇廿二（我にのルビ）、廿四〇八（然るにのルビ）、計十一。
モルモン書。

五〇五（都市のルビ）、九〇二（とかざるべき）、計二。

イテル書。

十二〇十七（得られのルビ）、十五〇廿四（合へりのルビ）計二。

モロナイ書。

七〇二（我か）、七〇四十（欲すのルビ）

十〇十（同じのルビ）、十〇卅三（中のルビ）計四。（合計七十三）

くわしく調べたらまだこのほかにあるかも知れません。新約モルモン経にもこれと同じ誤植、脱落などがすでに数箇所見つけられております。

完全ということがいかにむづかしいことかづくづく考えさせられています。熱心な読者によって熟読指摘して下さいますならば、もっとよい聖典にする協力をして下さったことに對して必ず祝福があるにちがひありません。

盛大だつた中央地方部大会

十月五日六日の二日に亘り、千駄谷区民講堂でアンドラス伝道部長管理の下に中央地方部秋季大会が開催された。集まるもの東京中央支部、北支部、南支部、西支部、横浜支部、高崎支部、前橋支部、松本支部、甲府支部の宣教師、会員、求道者たちと、更に遠く名古屋、仙台、新潟、小松の各支部より若干名の

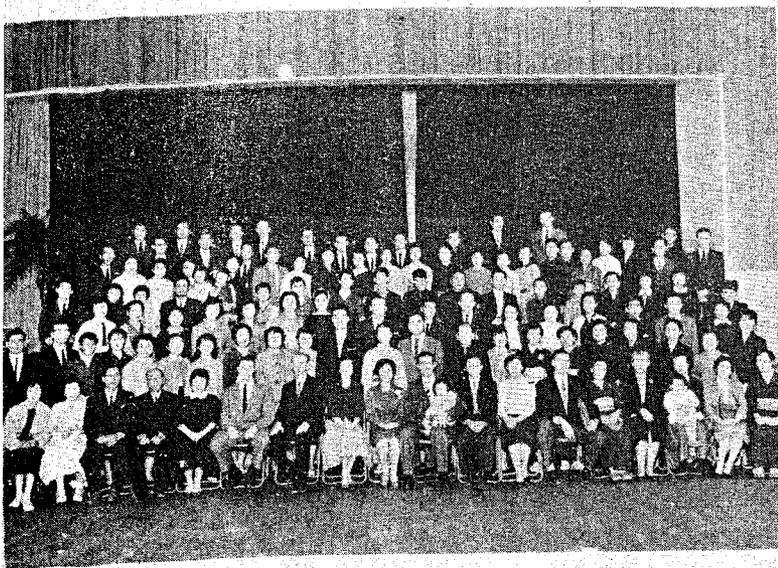


会員も列席され、参列者約三百名近く未曾有の盛況を極め聖餐式も遂に新しい方式に変更して聖餐を戴かず、幹部支持の後すぐに証会に入り、それも先に希望者に起立して貰い番号札を渡して話して貰う事となった。又記念写真も全員入れない為め東京と他地方と二分して撮影した。大会テーマは、

「見よ我は民に証し、民を警めん為に汝等を遣わせり。さればその警めを受けしことあるすべての人は、その隣人を警むる責任あり」

指導者会、M I A

十月五日は午後二時から渡辺かん兄弟司会の下に指導者会開催をす佐藤汎兄弟がエリフの言葉を引用して「若くして指導者に選ばれたる者の勇氣と責任」を強調、次に渡部正雄兄弟は「指導者たるには先ず謙遜、学ぶ事、実行すること、祈る事、証と愛を持って立つこと」を強調、それより分級、教師のクラスは大人に對し、ラリー・シヤムウエイ長老が「一般教授法特に求導者に對し如何なる方法に



よって教授するか」
子供に対し大塚昌治兄弟と内野澄江姉妹が「デモストレーションによる模範教授法の実習」を行う。

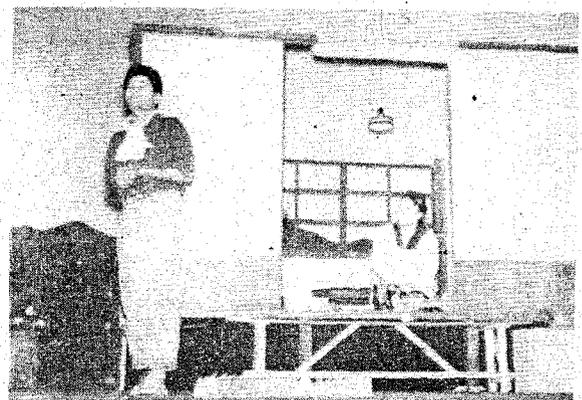
役員に対して渡辺かん兄弟が「指導者の定義と指導者として欠くべからざる特質に就て」教授し、再集会の後新後閑長老より「スタンレージョンズ」の話を引用し「我々真の教会に神権を持って働く者の人を警告する重責」を強く列席する指導者達の胸に訴えた。

午後六時四十五分よりはウエルチ長老、山岸姉妹指揮により、夕の讃歌——自然に於ける神の栄え、イエスのみ知り給う、流浪の民を合唱、素晴らしい音楽に一同感歎何時の日か日本にもソルトレークのタバナクル・クワイヤの様な合唱団が出現するのではないかと期待を強めた。引続き七時より、M.I.A.、二つの演劇を上演、先ず東京中央支部の「兄への手紙」これはウエルチ長老要請のもとに大塚昌治兄弟により、本大会テーマに沿って特に創作されたもので観賞の楽しさの中に各人の胸に伝道の責任感と熱情を燃え立たせた。次に前橋支部の「村の保守党」これは前橋の前支部長、グードイン長老が室蘭支部で上演したのを是非やってくれとの要請で上演、田中兄弟、姉妹、其他の名演技ぶりに一同嘖然、グードイン長老が見られたらどんなに喜ばれた事かと惜しまれる。

神権会、扶助協会一般大会
十月六日は神権会、扶助協会、証詞会、フア



フアイヤ・サイドで歌う宣教師



演劇 「兄への手紙」

イヤサイドである、
神権会（午前九時）ウエルチ長老司会の下に田中行平兄弟が「アロン神権に就て」奈良富士哉兄弟が「メルケゼデク神権に就て」のお話しあり、次に日本訪問中のハワイ、ワイド部の監督ランバート長老が「神権者の責任」を強調義務を忠実に尽して内なる光を益々輝かすようにと激励、最後にアンドラス伝道部長が「神の子供、特に神権の所有者は自分が誰であるかを知り、忘れてはならない。忠実に守るなら他の世の王となるように約束する」と勧告された。

扶助協会（午前九時）

フランシス・ピ・アンドラス扶助協会長管理の下に田畑スーザン姉妹の司会により開催主題「父なる神のみまえに清く汚れない信心とは困っている孤児ややもめを見舞い自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことにはかならない」に関し宮城みち子姉妹より話あり、次に出原順子姉妹が「神権と扶助協会に就て」話し、山田いく子姉妹の「我が証詞」の独唱、最後にアンドラス姉妹より「扶助協会設立の意義と目的に就て」話があった。

一般大会（十時半）

先ず新任中央地方部長シン長老の就任挨拶あり、高木富五郎兄弟が「仁愛を以て伝道の義務を果すよう」こんこんと論され、次の礎推正三兄弟が多年の牧師生活より改宗した経緯に就ての貴重な体験談に参列者一同の真の教会に対する証を更に強化、今井兄弟が、

八年前一宣教師として働いて居られたアンドラス伝道部長の車中伝道の結果、自分がこの教会に導かれた体験を通して「如何なる地、如何なる処に於ても警告すべき義務ある事」を強調、次に阿部姉妹が伝道転任中車中での貴重な体験による証を発表、最後にアンドラス伝道部長より

一、父なる神は生きて居られる事

二、全人類は神の子であること

三、救いの計画がもたらされ、エホバなる、キリストが救主としてそれを実行して居られる事

四、父と子がジョセフ スミスに現われ、真の福音が回復された事

の四つが事実である事を知り先ず神の国と神の義を求めよ、さらば凡てこれらの物は汝に加えられるべしと力強く結論された。

午後二時半よりの聖餐式と証会は冒頭に記した通り、新方式による証会だけとなり、三十三の番号札を配ったが、二十番迄来た時、時間となり、ホキ長老が特に帰米を前に最後の証を立て閉会となった。

フアイヤサイド(タレントの夕べ) (七時)

一、宣教師コーラス オールクリエチユア

二、南条姉妹 夜曲

三、出原姉妹 オーデヴァインレディーマー

四、ラリ シヤムウエイ長老ヴァイオリン独奏

サーダス

五、二重唱、カメコナ長老、山田姉妹、銀のひも、ロンドンデリー

六、ピアノ 中村姉妹、スバニシゼレナーデ、恋の夢

七、カメコナ長老、カロミオベン、イタリア民謡

八、フルート、ウエルデ長老、オフエトア(捧げ物)

九、コーラス、頌歌、おおわが御父よ

以上で五、六両日に亘った大会の幕を閉じたが終始神のみたまにみたまされた全場に感激の二日間を過ぎた参加者一同一層の証と歡喜をこめた握手に名残りを惜しみつつそれぞれの家路についたのであった。

当日 渡部 記

福音のたより

各支部の報告

九月の山形支部
一日(日) 夜七時半からMIA主催のフアイヤサイドの会を開きました。アステル長老によるたくさんのスライドを見せて頂きながら楽しいひとときを過ぎました。

八日(日) 峰田好子姉妹のバプテスマと按手礼の儀式がありました。峰田姉妹は長い間求導者としての年月を過ぎて来られ、ようやくこの日恵まれて神様との聖約を結ぶ事が出来ました。

十九日(木) MIAでテルホード地方部長さんをむかえ「音楽とスピーチの夕」として

会を開きました。

廿一日(土) 山形支部大会のMIAの会でした。廿二日(日)は、テモテ前書四章十一節から十三節までをテーマとして、山形支部大会を開きました。聖霊にみたまされた有意義な会として終る事ができました事を心から感謝して居ります。

廿三日(月) ソポットミーティングで山形に集っていられた他支部の宣教師達にも加って頂き恒例のいも煮会を開きました。そしてこの会を建設資金のための食べよう会に致しました。出席者は長老十名他十九名でした。馬見ヶ崎の川原に宵暗のせまる頃まで私達は和やかな親睦にみちた寮囲気から感謝しながら過ぎました。

二十九日、この日は本当に素晴らしい安息日として過すことが出来ました。成田姉妹、吉田姉妹、遠藤兄弟、中山兄弟、竹川姉妹のバプテスマの儀式が馬見ヶ崎川原で行われました。竹川姉妹はまだ子供の日曜学校の上級クラスの生徒ですが長い間忠実に出席を続けて居ります。この様に強い信仰を持たれる人々が五人も一度に会員となる事が出来ました事はほんとうに素晴らしい事と思えます。

名古屋支部の集い

草壁 園子

食べよう会 (1)八月卅一日の午後、カツライスを扶助協会にて作り建設資金の一部に加えました。(出席者卅四名)

(2)九月廿六日の午後、映画とドーナツの会

を持ちこれも建設資金に加えました。(出席者四十三名)

二人の宣教師 バンノイ長老とロー長老とを小松より九月四日迎えました。これで当支部も久しぶりに宣教師四名となりました。

MIA 九月十九日音楽と演劇の発表会と特別プログラムを行いました。それぞれ他の日に特に演習致しまして皆一生懸命に行いました。

訪問者 南中央地方部長のフーバ長老、当支部を訪問された九月廿六日のMIAと九月二十九日の日曜学校に臨席になり有意義なるお話を聞きました。

ブライマリー(初等協会) 当支部では今年度新しく誕生しました。会長は日坂繁姉妹、第一副会長は柳田聰子姉妹、第二副会長は野田姉妹です。

系図委員会 当支部では新しく系図委員会が生じました。会長、柳田藤吉兄弟、第一副会長成田和好兄弟、第二副会長八木沼節子姉妹、書記、本島園子姉妹です。

バプテスマ 伊藤正七兄弟が犬山の木曾川の流れて浸礼を受けられました。伊藤兄弟は伊藤姉妹の御主人で名古屋で又新しくモルモン一家が生まれました。伊藤姉妹の長い間の努力と証とを以て伊藤兄弟の証の基をきすかれ支部の者一同心より嬉びと感謝で一杯です。

岡町支部の活動

十円献金 年一回の十円献金日に当りてい

つもより出席者多く(約九十名) 献金成績も非常に良ろしくて感謝する。また京都支部の閉鎖に伴って岡町支部会員になられた片山兄弟と川口兄弟とは遠方にもかかわらず今日から当支部へ出席、(九月十五日)

訪問者 以前当支部で伝道されて居った金沢支部の野田姉妹(現在堀上姉妹)がいよいよハワイへ行かれる為めお別れの御挨拶に見えた(九月十五日)

京都支部より片山兄弟川口兄弟との他に大西三重子姉妹も大金求道者と共に出席され当支部会員と交歓を厚くせられる(二十二日) MIAのオープンナイト 演劇部の方々に

依る劇「我が心 高原に」を上演する。十数名の熱心なる会員方の力演に多くの教訓を残して楽しき一夜をすごす(九月十九日) 扶助協会 夏休みサヨナラパーティーを催し種々ゲーム等をして楽しむ。また神戸支部新設に当りフーバー長老とダルトン長老とは、兵庫県歯科医師会館へ移転のため備品印刷物等を運び出された、(二十五日)

バプテスマ 大阪府北摂箕面山中の清流にて富山ヨネさん、前沢信子さん、伊川幸君の三人折柄の小雨けむる早朝、安芸、中川両兄弟によりバプテスマを受けられた。

役員聖任 川口兄弟 日曜学校の第二副会長に聖任せられる。聖餐式後引きつづき指導者会開催せらる。なお夜はフアイヤサイドを開きレコードコンサート等有りて楽しく過ごす(十月六日)

系図委員会 岡町支部系図委員会。第一回会合開催、会長阪本弘兄弟は系図委員会設立の挨拶と其の重大なる救のための必要性についての話、第一副会長阪本晴子姉妹は我が教会にのみ在る意義深き死者のバプテスマについての話し、第二副会長阪本幾代姉妹は系図調べの方法と記入方法等についての話しをそれぞれ準備した書類を配布して、今後相共に此事について興味深く研究する事を約束して散会す。

なお当支部では今後第一日曜日指導者会、第二、第三日曜日系図委員会、第四日曜日計画会と取り決める事になった。

空蘭支部の報告

さる九月七日札幌支部からモア、野田両姉妹を迎えて第一回扶助協会屋敷部集会を催し(出席十名)二十三日にはアイスクリームパーティーを開きました(出席廿四名)そして廿八、九両日の地方大会には二十名の会員が札幌へ行きました。なお十月十一、十二両日には教会堂建設資金獲得のため食品バザーを開いたが、会員求道者の熱心なる協力を得て成功裡に終了した。この日お客様のため一室を開放して教会歴史をジス・プレイして観客に真の教会を理解していただくことが出来、大変有意義でした。

当支部では九月二十二日中浜においてバプテスマを施行し、竹浪節子、吉田養子の二人の姉妹が誕生して会員一同感激に満たされました。

川崎 英三

旭川支部だより

肌寒い秋風にもめけず、私たち一同元気に活躍しています。

一、十円献金 子供、大人のクラスで由来をよく説明、日曜学校の意義に深い感銘を覚えた。(九月十五日)

二、聖任 河野兄弟アロン神権の執事にそして日曜学校会長に聖任、(九月廿二日)

三、結婚式 柴田姉妹と増田さんの結婚式を教会で挙行。パツク地方部長を迎えて出席者廿五名、盛大な一同の祝福をうけた。(九月廿三日)

四、地方部大会 札幌市第一生命ビルの神聖な九階大ホールでアンドラス伝導部長御夫妻を迎えげんしゅうくですばらしい大会を開催。出席者百三十名当支部より十七名参加。強い証詞とゆたかな御恵みを受け、出席者一同活潑な活動をしていますを心から感謝致します。(九月廿八、廿九日)

五、充実への努力 今月始め新役員のもとに出発した各補助組織は、冬来る目を目前にして、めざましい活躍をしています。支部の発展は補助組織の充実と活潑化にある事を役員一同は心から証詞致して居ります。そして各組織と日曜学校の出席率が向上致しました。

六、バプテスマ 中山兄弟、長門姉妹誕生、(十月十三日)

七、支部大会の準備 不活潑な会員の出席を奨励して、盛大な計画を樹てています。十九

日二十日開催予定。

八、訪問者 札幌支部の小島、柳沢、松下の三兄弟を迎え証詞会にて強い証詞をいただき一同深く感銘致しました。

東京北支部より

河野 敏 幸

一、バプテスマ 「われらは、自らの良心に従い、全能なる神を礼拝する特権ありと主張す」と信仰箇条第十一條にある。私たちの良心は人対象とするのでなく、神をえらぶことにあるのです。こうして神を信じバプテスマをうけてわが教会へ改宗する人は幸福であります。十月十九日には鈴木忠明、広田きわ、志村佐枝子の三人がバプテスマを受けて兄弟姉妹となりました。彼等に祝福のゆたかならんことを。

二、補助組織 このほど次のように補助組織の役員が改任されました。

日曜学校 (会長) 屋間修一郎 (第一副会長) 福田正勝、

(第二副会長) 石川善次郎 (書記) 谷保良子 (教師) 山田五郎、道場鈴子、新後閑長老。(音楽指揮) 山岸清子 (ピアノ) 中村協子。

M I A、(会長) 山田五郎、(第一副会長) 福田正勝、(第二副会長) 田中英子、(書記) 巧刀えい子、(音楽指揮) 村上幸子、(教師) 山岸、田中両姉妹

三、ダンスパーティー 教会堂建築資金獲得のため十一月十六日(土)午後六時から代々木

文化会館で開催の予定です。

伝道本部より

伝任

新任地

旧任地

アイラRテラフォード	本部	仙台
紙谷 富保	本部	山形 柳井
ネットド・クリスチャンセン	高崎	高崎
デルレイ ブラウ	高崎	高崎
ホ・ボム・シン	東京中央	山形
ダリー スミス	横浜	本部
エサ 佐藤	仙台	広島
村上 幸江	広島	本部
マリリン ハグ	横浜	本部
アン アイザック	本部	仙台
ベギー 勝田	本部	仙台
ア ン 遠藤	本部	横浜
任命		
シモンズ 長老	甲府支部長	
アイラRテラフォード長老	伝道部書記	
リチャード アステイン長老	北地方法部部長	
紙谷 富保長老	山形支部長	
ロナルド ヒルズ長老	柳井支部長	
ホ ボム シン長老	中央地方法部部長	
	地方部長	
アン アイザック姉妹	伝道部統計書記	
新宣教師到着		
キャロル レイ ブラウン姉妹		
村上 幸子 姉妹		
ダリー スミス 長老		

解任
 サム島 袋長老
 ドナルド グリーン長老
 ロバート D. グッドウイン長老
 ジェームス R. マックレイ長老
 パブテスマ

金城 秀子 (那覇支部)
 金城 ミチ子 (那覇支部)
 佐々木 民子 (仙台支部)
 藤上 まさ子 (〃支部)
 村上 吉弘 (〃支部)
 荒牧 澄江 (福岡支部)
 佐藤 巧二 (〃支部)
 太田 豊子 (〃支部)
 渡辺 輝子 (広島支部)
 大島 重夫 (小松支部)
 浅田 龍夫 (金沢支部)
 野中 泰子 (東京支部)
 川中 義将 (柳井支部)
 一山 澄子 (〃支部)
 上野 チセ (東京支部)
 宮里 友雅 (那覇支部)
 佐藤 静子 (横浜支部)
 木村 武博 (東京支部)
 鈴木 百合子 (東京支部)
 市原 和子 (〃支部)
 吉原 満子 (〃支部)
 吉原 満子 (山形支部)

竹川 幸子 (山形支部)
 成田 せつ子 (〃支部)
 中山 元男 (〃支部)
 遠藤 剛 (〃支部)
 五百蔵 直代 (阿倍野支部)
 一色 節子 (〃支部)
 伊川 幸子 (岡町支部)
 富山 ヨネ (〃支部)
 前沢 信子 (〃支部)
 斎藤 京子 (岡山支部)
 稲村 米香 (〃支部)
 大原 秀元 (〃支部)
 さんご 修士 (新潟支部)
 さんご しょう子 (〃支部)
 阿部 リツ子 (〃支部)
 岡元 知子 (札幌支部)
 折茂 美恵子 (高崎支部)
 福山 京子 (東京支部)
 磯村 まさひろ (東京支部)
 磯村 君 (〃支部)
 上野 茂子 (新潟支部)
 中野 ヤエ子 (山形支部)
 阪井 けい子 (〃支部)
 阪井 慶子 (〃支部)
 京谷 紀明子 (札幌支部)
 渡辺 貞夫 (〃支部)
 渡辺 賢二 (〃支部)
 室谷 喜久江 (〃支部)
 相馬 淳美 (〃支部)
 大場 章円 (〃支部)

原稿募集

各支部の活動状況 (四百字詰三枚位)
 証詞 (同二枚位)
 各支部の集会、証詞の筆者の写真等 (毎月十五日まで)
 送り先 浦和市岸町八の一四番地 高木 富五郎宛

松下 忠弘 (札幌支部)
 内野 国広 (東京支部)
 川久保 喜唯 (〃支部)
 吉田 陽子 (室蘭支部)
 小林 さと子 (小樽支部)
 伊藤 正七 (名古屋支部)
 竹内 健七 (金沢支部)
 かき島 秀子 (札幌支部)
 笹尾 素子 (〃支部)
 上村 昌輝 (〃支部)
 鈴木 忠明 (東京支部)
 志村 佐枝子 (〃支部)
 広田 キヲ (旭川支部)
 中山 武男 (〃支部)
 長門 キヨ子 (松本支部)
 川上 雅子 (〃支部)
 古田 憲子 (〃支部)
 山田 裕子 (〃支部)

信仰と証詞

永遠の愛を知る

那覇支部 石橋 洋子

教会へ行く事が何故わるいのかと聞けば誰も答へられないのに、私が日曜日に教会から帰つて来ると、待ちかまえていたかの様に私が教会へ行く事をあざ笑ひ、やめなさいといひます。「私は教会へ通う人間を尊敬したいよ。何故なら、貧しい人や弱い人が教会へ行くものだよ、まして先祖でもないアメリカの神を拜むのだからさ」とは、家族の誰もが一度は口にする言葉である。勿論弱いから天のお父様に頼るのであつて、強いものであるなら神を信じようとはしないであらう。しかし人間は不完全ですから、自分で偶像などを造つて拜み満足を得ようとしている。先祖崇拜も悪くはないが、決して永遠でなく又私達の先祖だつていずれの日か、あの世に於て本当の神を礼拝しなければならぬのだ。それよりこの世に於いて眞の神を知り信仰し悔改めバプテスマを受けたなら聖靈の多大な賜物を受け、日々を幸せに暮せるのにどうして簡単に得られる幸福を自ら逃してしまふのでしようとなげかずには居られない。家族の者は「キリスト教を信じるひまに勉強

しなさい」とよくいう。しかしどうして教会に行く事は趣々に行くのですか、せつかくの安息日に家族と雑談に費した時間を過すより教会で神教を学ぶ事がどうも喜ばしいものであるかという事は私の外は誰も知らないのだ。私は神教を学び理解できる度毎により近くに神を知るのですもの。それから子供の頃より父を仰慕していると「眞女は教会にしばらくいてい」という。家族がどうしてそんな事をいうのかといひますと、多分私が子供日曜学校をうけつてゐるからなのでしよう。けれども私としてはむしろ責任が重つてどんな事があつても、末日聖徒イエス・キリスト教会から離れることのないのを喜びとして誇りにさえ感じているのに、家族の者が私を哀んでゐる様子だが、むしろ家族の者が可哀相でならない。今は唯ひたすらに天のお父様に家族の音が貴方様や御子について理解出来る様にお祈りするのみ。。。

家族の者は「何故教会へ行く氣になつたのか」としきりに聞く、私が答へないでいると「何が不足で何が苦しいの」とはげしく聞くので「神様しか頼れないんだもの」というとびつくりした様に「家族も信頼出来ないのか」といふかめしく聞くからオブ・ユースと答へてしまつた。けれどもほんとにそうなのだ。父は母の外に妾があつて、それがため本当の愛情を知らない母は、私達にも愛情を教へなかつた。父と母とはいつても暗く冷い顔で、兄

達は相続争いで、姉は誰のみの夫とあつて居まして幸福ではなく、私に對して「私に比べてお前は幸福だよ、だから何も教会なんて行かなくてもいいぢやないか」とこぼす。

それは誰のつくつた不幸なの？ 又もうひとり姉は夫を信頼しいい妻に思へるのだが愛憎にとぼしく不幸である。私の家族は誰も本当の愛を知らないのだ。私はいつも願つて、家族にもうすこし愛情があつたら何不自由もないのだがと望みをかけていたけれど、もうだめ、それより愛情に欠けている時、神様が必要ならだけの愛情を下さいます事をしつていますから私はそれだけで十分なんです。そして私が悲しい時、神が私と共に在します事も知つてゐるから私は私と共に在します神に靜かに感謝している。私の最も愛する神又私を限りなく愛して下さる神は私が悲しみに沈む時私に勇氣づけて下さるし、苦しい時慰めていたゞける事も知つてゐます。又、私の朝夕の祈はすべてお聞き下さる事もよく知つて居ります。天父なる神は永遠ですから私は永遠の愛情を受くる事ができるのを何よりの喜びで有り変らぬ幸福である。母のいうイエス様がアメリカのおとぎ話なら私の生涯もおとぎ話に過ぎないであらうでしょう。それでもいいのだ。けれども、決してそうじゃないという事を聖書がモルモン経が証しているのだ。そしてそれらの聖典によつて私達末日聖徒の信仰は強められるのです。今更の様に私は末日聖徒でゐる

事を善びとし誇りに感じます。

それは末日聖徒イエス・キリスト教会が唯一の誠の眞の教会だからです。そして敢後にこの教会を知らない人々の上にも似た様の祝福のあらん事を願いつ、これ等のことをすべてイエス・キリスト様の御名によりて申し上げます。

兄弟への手紙

東京南支部 小林 みい

私も毎日仕事に追われながらも元気で居ります。今日又会に行きたためたのですがとうとう行かれませんでした。仕事をしながらも今頃日曜学校かしら。。。もう望餐式が始まつた頃かしらと時計ばかり見て一日過してしまいました。

人間はそれぞれの境遇運命の下にあつて生活していますから私に理解できる事が貴方には理解できない場合があるでしょう。又逆の場合もあるでしょう、しかし私達はそれぞれに違つていても同じ信仰を持っていますね、そしてそれは凡ての場合に又凡ての人に光と希望を与えてくれるものと思ひます。

ジョセフ・フイルディング・スミス十二使徒会長が日本に来られた時、私達が光を照らす様に、人々の模範となる様にと申されました。この事は特に会員の少い又家族の中に自分だけが会員という日本の場合にあつて本當

に必要な事ですね。

私達の持つている光が何時も放たれているならば何時か私達の周りの人々はその信仰と証詞とを認めて下さるでしょう。忍耐を以て此の事を続けるならば平女と喜ひとが私達の心の中に湧き上つてくるでしょう。

嘆かずに愛えずに主の道にいそしみたいと思つています。イエスは申しました。「汝の兄弟を愛しなさい。欠点や悪い所を見ないで良い所を見なさい。貴方が正しい道を行なうなら兄弟もそれに従うでしょう」神様は申しました「主の道を歩む者に対して主は必ず助けを与えて下さる、誠命を与える時には必ず其の誠命が果される様に道を備えて置く」。

此等の約束は事実にあります。私達が主を愛するならば誠命を守らなければなりません、努力するならば助けがあります。導きがゆりまです。モルモンの開拓者は不毛の地に素晴らしい文化を築き神の聖徒の住む街を作りました。開拓の苦難に打ち勝つ力、努力、喜びの犠牲こそモルモンの精神です。私達は彼等に学ばなければなりません、私達を持つているものは多くの困難と誘惑です。しかし私は心から神様に感謝して居ります。此等の困難こそ、私達の証しを強め、私達を神の子として育てて行くのである事を知つてゐるからです。明るい希望を持つて春の花の如く心の中に美しさを保ちましょう。確信と信頼は確かなも

のとなつて岩の上に信仰が打ち立てられるでしょう。永遠の生命はこの岩の上にゐる人のちにやつて来るものでしょうね。それは強くあつた人の上に与えられると主は申されました。私達は心から：へりくだつて：何時も神の御霊の導きがある様に祈りましょう。これらは全て私の証詞です。御判読下さいませ。

「祈れ」

スラ・タフトベソン長老

知恵にすぐれ、神の寵愛に与らんに祈りに勝るものはない。それ故私は諸君に祈り、即ち日々祈りしひそかなる祈りし日常生活の主要なる所にあつて祈りを捧げる様切に願うものである。一日たりとも祈らぬ日のなき様にせよ。何をさておいても祈りを見合す事なけれ。今日迄の世界の歴史を見渡す時、國と個人の行末を善きものたらしめた男女の力と靈感と啓示の根源は全能者との交りであつた。偉人は祈る。フォージ盆地でのワシントン、ゲツテイスバーグでの演説の前のリンカーン、上陸作戦断行日のアイゼンハワー、ゲツセマネとゴルゴダに於けるイエス、これらのすべての人々は祈つた。自らの心を偽るなかれ。祈れ、あらゆる時代の偉人、善人、賢人の模範に従え、求めよ、さらば与えられん「汝すべこの途にて主をみとめよ、さらば主汝の途を教え導き給うべし」然り、自らの心を偽る事なかれ。祈れ。

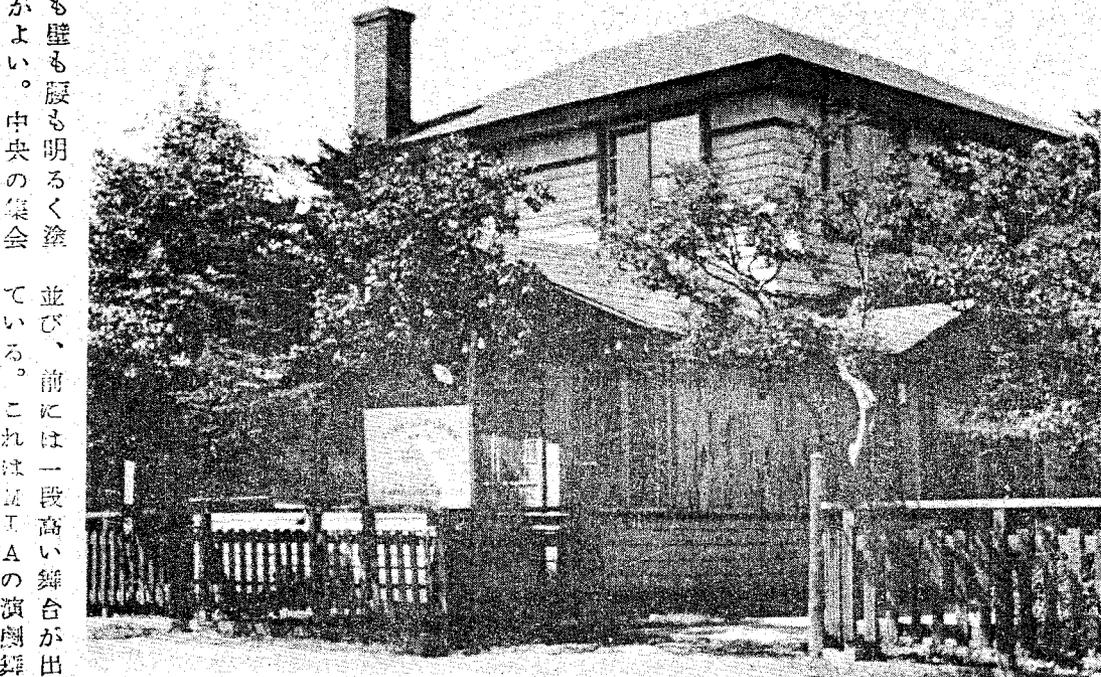
札幌

我々は津軽海峡を北に越えると、狭い日本にもこんな広い土地が残っていたのかと思われる広漠たる原野を見る事が出来る。それは写真や話によって我々の知るユタ州及びその近辺の、広大な畑や牧場をほおふつとする。

散在する農家も、内地のそれとは全く趣を異にして北欧の家の様である。外国に來たか、の感に浸っているうちに我々はこの広い北海道の文化の中心地、札幌に着く訳である。

新しい駅を出て、有名なアカシヤの並木を見ながら南に行き、三越デパートから西に円山公園近くまで、即ち二十四丁目まで行くと我等の教会を容易に見る。札幌支部がこれである。北海道らしいどっしりした建て方のペンキ塗りの建物、ここに六十人余りの会員を擁して活動が続けられている。

人の宣教師を頂いている事は、種々な活動の上に大きな助けを得られて誠に幸せな事と思ふ。尚、一九〇七年受浸の熊谷姉妹が今尚健在で、音楽指揮に活動されて居る事は、真理の道を常に積極的に行きむべき我々にとつて、後進へのよき模範である。



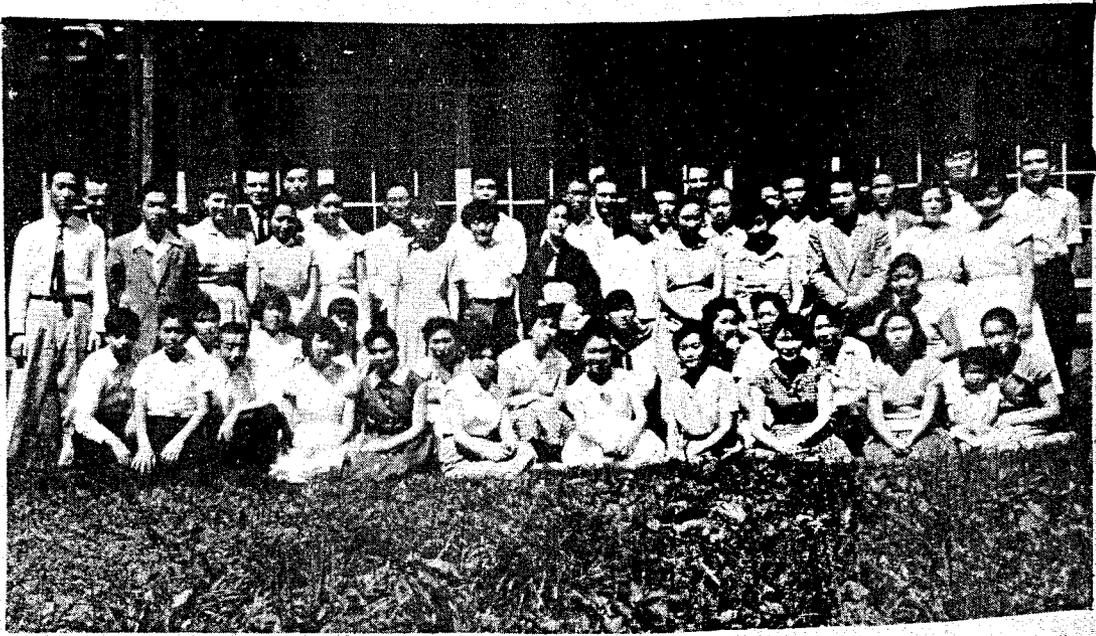
札幌支部教会堂

建物は日本式の各部屋が既に改築を終えて大きな集会場の外、クラスの教室に、事務所に、総て床を張り、天井も壁も明るく塗り並び、前には一段高い舞台が出来ている。これはMIAの演劇舞台

として都合のよい物だろう。更に聖典をひもときながら話をするのにも具合のよい様に少し傾斜した大きな机が置いてある。それ等の設備は教会らしい落ついた雰囲気だ先づ我々の周囲を包んでくれる。これだけ整える為には支部の会員達の充分な働きが必要である事を我々は知るが故に、この事を成し遂げた札幌支部の兄弟姉妹の長い間の努力に先づ敬意を払おう。

日曜学校に出席した誰もが気のつく事は、我等の伝道部としては珍しい支部の一つとして、この支部が教会組織の殆どを男子の会員をもって構成している事である。因みに、補助組織の役員は次のようになっている。

- 日曜学校
- 会 長 柳沢俊雄兄弟
- 第二副会長 新庄 洋兄弟
- 第二副会長 児島克己兄弟
- 書記 松下泰洋兄弟
- 音楽指揮、クラス教師等も一、二の姉妹を除きこれ等の役員が当っている。
- M I A
- 会 長 児島克己兄弟
- 第一副会長 新沼政宏兄弟
- 第二副会長 松下泰洋兄弟



札幌支部大会

ここには長老三人をはじめ神権

支部会員達が積極的に責任を持つ

更に多数の初等協会に



札幌支部の役員達

この事は一層神の国に近くなる事であろう。然し四人の宣教師をはじめ活潑な会員達の熱心な働きかけによって、この報告が活字になる頃には既に前進して、この報告は現実を語るには古過ぎる状態になっていくかも知れない。我々はそれを深く願って、算のずいからのぞいた報告を終わります。

聖句集 「服従」

・・・それ願う事はいけにえにまさり聴く事は牡羊の脂にまさるなり。

(サムエル前書十五章廿二節)

人に従わんよりは神に従うべきなり。(使徒行伝五章二十九節)

汝等もし我を愛せば、我が誠命を守らん。(ヨハネ伝十四章十五節)

(ヨハネ伝十四章十五節)

私は主が命じたもうたことを行つて行方。私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それなくては、主は何の命令も人に下したまわなことを承知しているからである。

(第一コリント三章七節)

汝らわが言うところを行方、主なるわれこれに対して責任されど、汝らわが言うところをわすれば汝ら何ら約束を受けず。

(教義と聖約八二章十節)

モルモン經物語

エマ・マー・ピーターソン著 渡部正雄訳

第四章 彼等は出帆した

(イテル書第六章)

主なる神様が指をふれた石は今や光り輝きました。ジェレドの兄弟はその石を持って山を降り、二つつつ各船の両端に置きました。それ等は船の中を照らしました。

今や彼等は光りを持ったので、ジェレドの民は彼等の持物を船の中に積んで出帆の準備を致しました。彼等はその家族達を船に乗せ、又全家畜とすべての食糧や水を船の中に運び入れました。そこで彼等は主なる神様が彼等を安全に約束の地に導くであろうことを信じて海に向って出帆致しました。

主なる神様は海上の小さな船が約束の地に渡れるように強い風をお吹かしになりました。彼等は強い風の中の波に揺られ、或時は高い波にかぶられて海中深く沈み、丁度主なる神様が言われた通り鯨のように水の中を航行しました。

風は海上を嵐とする程強く吹きましたが人々は水一滴ももれないようによく造られた船の中で全く安全でありました。彼等が水中に長く沈んで新鮮な空気を得ることが困難になった時は彼等は主なる神様に彼等が船の戸を開ける事が

出来るように船を水面に出して下さるようにお祈り致しました。主なる神様のお守りと祝福を感謝して人々は旅行中ずうつと続けて、主なる神様を讃美し歌いつづけました。彼等は三百四十四日間かけて海を渡りました。

遂に彼等は後にアメリカとして知られるようになった約束の地に到着致しました。彼等は岸に着いた時、地にひざまずきへりくだって喜びの涙を以て主なる神様に祈り彼等に与えられたお恵みに対し感謝致しました。

彼等は、彼等の持物や家畜や草木の種子等を船の中から取出して此の新天地に彼等の家庭を建設し始めました。彼等は土地を耕して畑を作りました。彼等はその家族の為に家を建て、主なる神様の誠命を信じ主なる神様に仕えました。海を旅した者は全部で二十二人居りました。

彼等の新しい家庭で更に多くの小供達が生れその家族がだんだん大きくなって来ると彼等はだんだんと新しい地方に移り拵がって行きました。主なる神様は彼等の作物や家畜の群を祝福し彼等は繁栄して幸福でありました。

年月がたつてジェレドの兄弟は老人になりました。或日彼はジェレドに言いました。「どうだろう。一つみんなを呼び集めて全部で幾人になったか数え私達が墓場に行く前に彼等が何を欲しているか聞いて見ようではないか」。

人々は大集会に呼集められました。彼等はジェレドとその兄弟に私等が死ぬ前に何を欲しているかと問われました。人々は彼等の中から一人の王を選んで彼等を治めさせるようにして欲しいと希望しました。ジェレドと彼の兄弟はそれを聞いて悲しみその事は問題をひき起すのではないかと恐れしました。主なる神様は此の地は自由であるべきで此の地に住む者は正しく生活する限り誰も隸属すべきでないと言ってお告げになりました。ジェレドの兄弟は悪い王が民を隸属させるようになるのではないかと恐れて言いました。「この事はきつと捕虜をつくるようになる」と、けれどもジェレドは彼の兄弟にその民が自分達の望むようにさせるようにすすめました。遂に彼はこう言いました。「お前達は私等の息子達の内から好きな人を王様に選びなさい」と。

民はジェレドの兄弟の長男を選

びました。彼の名はペーガグと言

いました。けれどもペーガグは王

になることを拒絶しました。民は

彼のお父さんの許に來て、彼に王

になることを承知させるように頼

みましたがお父さんは彼等が誰に

対しても王様となるように強制す

べきではないと言つて断りました。

彼等はペーガグの兄弟の一人を選

びましたがその兄弟も断りました。

そこで彼等は他の者を選びました

がその人も承諾しませんでした。

彼等はジェレドの兄弟の息子達全

部に頼みましたが一人も承諾しま

せんでした。彼等はそこでジェレ

ドの息子達に頼みました処、末子

を除いて皆、断りました。末子は

承諾しました。

彼の名前をオライハと言いまし

た。彼は王の位に就いて国を治め

始めその民は築えて大変金持ちに

なりました。

オライハは、正しくへりくだつ

て彼のお父さんの教えをよく覚え

て居りました。彼は民に主なる神

様に仕えその誠命を守るように教

えました。彼が治めて居る間にジ

エレドも彼の兄弟も共に死んで此

の約束の土地に葬られました。

第五章 ジェレドの民の 最初の戦争

(イテル書第七章)

ジェレド人の二番目の王様はキ

ブと言う名でした。此の王様の時

代にジェレド人の間に最初の戦争

が起り、彼等は兄弟どうしで戦う

ようになりました。

この戦争は親子の争いから始ま

りました。父親はジェレド人の二

番目の王様キブでありました。彼

は息子コラホルと争い、コラホル

は彼に叛いてその家族を伴つて附

近のニホル市に行きました。キ

ブ王はモロンの地に住みました。

コラホルの息子や娘達は大変美し

かったのでキブ王に属していまし

た。或人々は彼等に随つてニホー

ル市に行つてしまいました。コラ

ホルはだんだんと人々が彼の土地

に増えて来たので軍隊を組織しま

した。コラホルは野心家で王様に

なるうとたくらみました。彼は王

位に就く為にはその父親や兄弟と

戦うことをもかえりみませんでした。

コラホルは彼の軍隊を訓練した

後モロンの地を治めている父親キ

ブに向つて進軍しました。そして

彼を捕虜にして牢屋に入れてしま

いました。そこで彼は王位を奪取

り民を治め始めました。彼は幾年

もの間父親のキブを牢屋に入れた

まま国を支配しました。キブは家

族と共に捕虜生活をする事を許さ

れました。この間にシュニールと言

う一人の息子が生れました。

シュニールは生長して彼の兄さん

が父親を捕虜にしてその王位を彼

から奪取つた事を知つて怒りまし

た。シュニールは非常に強く又大変

賢い人でした。

エフライムと言う岡に行つてシ

ニールは鉱山より金属を採りまし

た。そして彼はそれで鋼鉄の刀を

造りました。

彼は彼の友達や父親の友達に話

して彼等と共にコラホルを攻め滅

ぼして王国をキブに帰そうと計画

しました。

彼等はシュニールがエフライム山

で造つた刀を以て武装しニホル

市に向つて進軍し其処でコラホル

の軍隊と戦いました。彼等はコラ

ホル軍を打破りほんとの王様であ

るキブを救出して再び王位を取戻

しました。

此の時キブは既に老人になつて

居りましたのでこの王国を取戻し

たシュニールに王位をゆづりました。

シュニールは賢い人でありましたの

で正しく生活し、よく民を治めま

した。彼の指導の下に民は増加し

全国に榮榮して行きました。

コラホルはシュニールの立派な治

め方を見た時自分の悪かつた事を

深く悔改めましたのでシュニールは

彼に王国内の或一部の権能を与え

ました。けれどもコラホルにノア

と言ふ悪い息子があり彼は王国を

自分のものにしたと欲しました。

ノアは軍隊を組織してシュニールに

反抗致しました。コラホルはシュ

ニールに対し忠実であり自分の息子

の叛乱に処して彼を助けました。

ノアは国の一部を占領し其処の王

様となりました。其の後彼はもつ

と強大となつて再びシュニールに反

抗致しました。今度は彼はシュニ

ールを捕えこれを殺そうと企みまし

た。けれども或夜シュニールの息子

達がノアの家に侵入し彼を殺しま

した。それから彼等は牢屋の戸を

打破り彼等の父親を救出し王位を

取戻してやりました。

ノアの息子の一人にコホルが

居りました。彼はシュニールに仕え

ず自分に随う者全部を引き連れて

別の王国を打建てました。今や民

は二つに分れジェレドの内にシュール
の王国とコホールの王国と二
つの王国が出来ました。

コホールはニムロデと言う息子
を持って居りました。ニムロデが
その父親から王国をうけついで時、
彼はシュールに降服しましたので
二つの王国は再び結合致しました。

これ等の戦争の間に人々は大変
悪くなりましたので主なる神様は
彼等の間に予言者を送り彼等の罪

を警告致しました。予言者が彼等
に悔改めることを叫んだ時彼等は
彼を嘲笑し迫害しました。けれど
もシュールは予言者達にさからう
者を罰し予言者達を守る法律を定
め何時如何なる場所に於ても彼等
が説教出来るように致しました。

予言者達は続けて説教し又シュ
ール王はよく彼等を保護しました
ので民は彼等に耳を傾け始め自分
達の罪を悔改めました。人々は相
互の争いを止めました。このよう
にして此の地に平和は回復されシ
ュールの治世に於ては戦争は絶え
てなくなりました。

民は悪化した時に真の福音から
背教し主なる神様の目には大変罪
である偶像を礼拝するに至りまし
た。けれども今や彼等は悔改め始

め、その偶像を取除いて再び真の
神を礼拝するに至りました。

シュールは彼の父親の話しを記
憶して居り彼等が如何にして海を
越えて約束の地に連れて来られた
か又主なる神様が彼等になした約
束をもおぼえて居りました。彼は
其の後彼の生涯を通じてへりくだ
って正しくその王国を治めました。

第六章 悪い皇女

(イテル書第八章及第九章)

オーメル王は高潔な方でジェレ
ドの民をよく治めました。彼はジ
エレドと言う悪い息子を持ち、ジ
エレドは父親に代って王となろう
と企みました。ジェレドは上手な

言葉を以て人々にへつらつたので
多くの者が彼に従いました。遂に
彼はうまいこと、だまして国の半
分を奪取してしまいました。そこ
で彼は彼の軍隊を以て彼の父に反
抗して戦争を始めました。ジェレ
ドはコラホルの悪さに見習ってオ
ーメルを捕虜にして連れ去ってし
まいました。そして自分を王国全
体の王にしてしまいました。

オーメルはその半生を囚の身で
暮らし或小供達はその時生まれま
しました。その中に二人の息子が居り
ましたが彼等は彼等の悪い兄のジ

エレドが彼等の父を牢屋に入れて
居ることを大変怒りました。そこ
で彼等は彼等の友人達を集めて或
夜ジェレドの軍隊を攻め滅ぼして
しまいました。彼等はジェレドを
も殺そうとしましたが彼がわびて
許しを乞うたので命だけは助けて
やりました。

けれどもジェレドは悔改めさせ
ませんでした。再び彼は王になろうと
企みました。ジェレドは彼と同じ
ように悪い美しい娘を持って居り
ました。彼女はその父が王位を失
つてふさいで居るのを見て王位を
取戻すように手伝いまいしようと思
出しました。

彼女は、彼にエキンと言う強い
悪い男を知らせました。彼女はエ
キンの前で踊って彼を喜ばせ彼女
に結婚を申込みせるように企みま
した。そうして若しエキンがジェ
レドにその娘を嫁にほしいと申出
た時にはジェレドは「お前は王で
ある我が父親の首を持って来たら
彼女をあげる」と言いなさいと彼
女はジェレドに勧告しました。

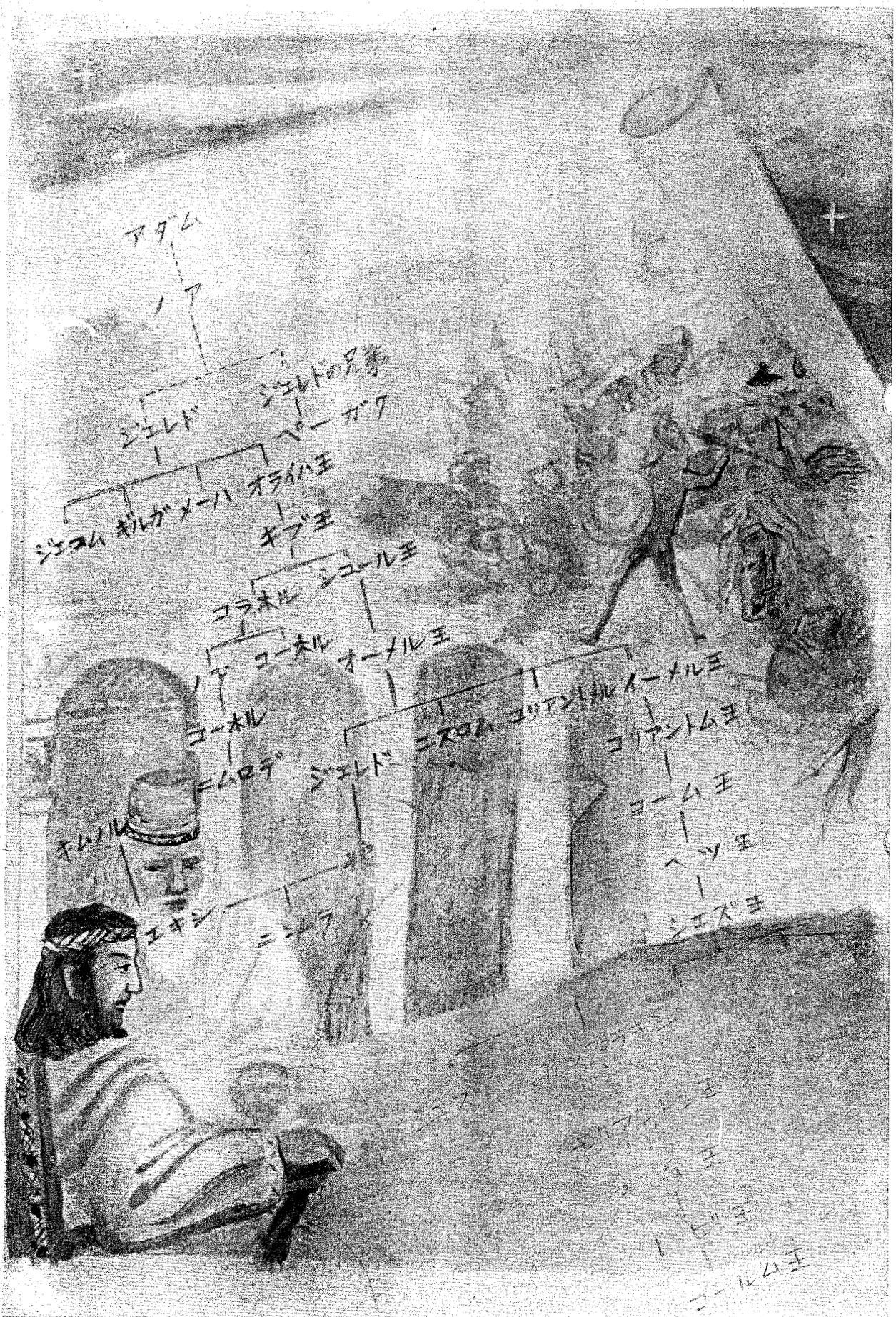
ジェレドは悪い娘の言う通り
彼女をエキンの許に遣しました。
皇女はエキンの前で踊りエキンは
非常に喜んで彼女に結婚してくれ

と申込みました。そこで悪いジェ
レドは言いました。「若しお前が
王である我が父の首を持って来た
ら彼女をお前にあげるであらう」

エキンはその美しい踊り子を自
分の妻にする為には王を殺すこと
もいといませんでした。けれども
彼は助けが居ることを知っていま
したので彼はすべての彼の友達や
親戚を呼び集めて秘密結社をつく
ろうとしました。エキンはすべて
の者が彼が命ずる事をなすと誓う
ように言いました。これ等の人々
は皆誓って仲間に入りました。彼
等は又彼等の集会で起った事や彼
等のなした約束を密告した者は誰
でも殺すと言う誓いを立てました。

皆の者に誓いを立てさせた後エ
キンは彼らに彼が王を殺して再び
王位をジェレドに与えるのを助け
るように命じました。彼等は皆助
けることを約束しました。

主なる神様は正しい王、オーメ
ルを愛されエキンとその悪い一味
がオーメルを殺そうと企んだ時、
オーメルにその土地から逃げるよ
うにお告げになりました。オーメ
ルは彼の命をねらうジェレドを除
いた全家族を伴って彼の家を離れ、



アタム

ノア

シエルト

シエルトの兄弟

ペーガフ

シエルト
オライ王
キブ王

クラホル
シール王

ノア
ユーホル
オーホル王

ユーホル

エムロフ

シエルト

エヌホル
コリツトホルイホル王

コリツトホル王

コホル王

ヘツ王

シエス王

キムル

エオン

ニシラ

エホル王

荒野に向つて何日も旅も続けました。遂に彼はアプロムとして知られてゐる海岸にたどりつき其処を彼等の新しい住家としました。

ジエレドは彼の父親が王国から逃げ去る事を知ると王位を奪取つて再び王として支配し始めました。彼はエキシがオーメルを殺す事が出来なかつたけれども彼の悪い娘をエキシに与えて結婚させました。けれどもエキシは今度は自分が王になりたいと思ひ彼は彼の秘密結社に加わつた一味の処に行き彼等に自分が王位に就く事が出来るようジエレドを殺すように頼みました。

或日ジエレドが民の要求を聞いて居る時、悪いエキシの秘密結社の一味の者がジエレドを殺してしまひエキシが王となりました。エキシの息子の一人にニンムラーと言ふ評判のよい若者が居りました。エキシはニンムラーをねたんで牢屋に入れ死ぬ迄食物も水も与えませんでした。

ニンムラーは何人かの兄弟を連れて居りました。彼等の中の一人はエキシがニンムラーに對してなした事を大変ふんがいてその王国を去り善良なオーメル王の処に

行つて共に住みました。エキシの其の他の息子達は彼等の父の秘密結社に加わり悪い言ひを立てました。その後父親に對してふんがいた彼等は民が彼等に從うならお金をやると申出ました。エキシの民はエキシが権力をむさぼると同じようにお金をむさぼりエキシの息子達がお金を与える間は彼等に從いました。間もなく大臣がその

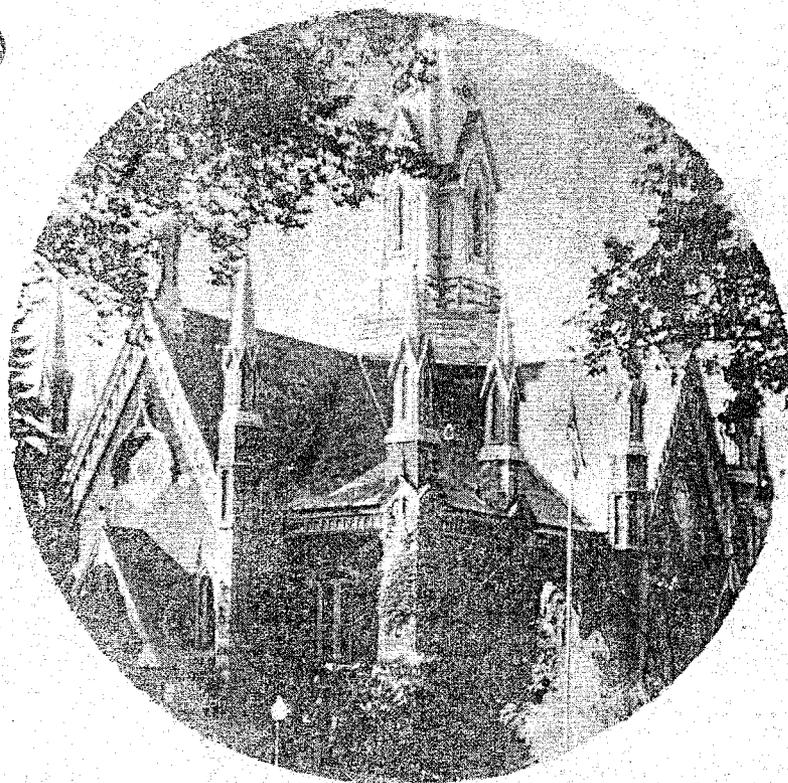
息子達に從ひ、彼等はその父親に對し戦いを始めました。戦争は多年にわたつてつづき最後の戦いには全国を通じて三十名しか残らなかつた程荒れて果ててしまひました。この生き残つた人々はオーメル王の処に行つて住みました。オーメルの敵が全部殺されてしまふと彼は再び全国士を治めるようになりました。

編集言
* 十二使徒のベンソン長老が米國政府の農務長官として来朝された好機を得て、東京に臨時大会を開いたことは誠に恵まれました。

* この大会の記事は来月号に詳報して兄弟姉妹たちの期待に添いたいと思つています。

* 「教義と聖約」及び「高価なる真珠」の日本訳は近く出版されますから、この書は是非精読されたい本教会の四大聖典の二つです。

* 「支部訪問記」は各支部から原稿と写真を送つて頂くよう期待して居ります。未掲載の支部の方にお願ひ致します。



昭和三十一年十一月十日発行

定価 十円

発行人 ポールCアンドラス

編集人 高木 富五郎

発行所 東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエスキリスト教会

北 部 極 東 伝 道 部

大管長の言葉

「神殿の事業」について

われわれは、幸福、救い、及び福音を学ぶ機会に恵まれず知らずして死んで行った人たちの贖いのために欠くべからざるものとして啓示された福音の神聖な、力ある儀式を活用すべきである。

ジョセフ M スミス大管長

如何なる人でも、若し少年ジョセフ スミスに對してなされた約束が成就されたということ、エライジャが來訪してこれらの鍵を回復したという聖靈の証詞を持たないならば、決して死者のために働いたり、毎年毎年神殿を建てるためにお金を費やしたり、汗水流して働いたりするようなことはしないであらう。

ヒーバー J グラント大管長

「教会の」すべての神殿は一つの大きい永遠の目的のために建てられている。即ち、主の宮として天と地とを結び固める聖なる儀式。即ち死せる者、及び生ける者のための儀式を執行するための聖なる適切な所として奉獻されているのである。

ジョージ アルバート スミス大管長

時満ちたる神権の時代に回復されたイエスキリストの教会の特色の一つは、その儀式が永遠であるということである。神殿の中では

そうした最も神聖な儀式が執行され、神殿内で結ばれる男女は、一時のみならず、永遠に結ばれその家族が永遠にまで続く様、
聖なる神権の権能によって結び固められるのである。
デビット O マツケイ大管長

福音書の日本語版

新訳「モルモン経」(口語体 上製)	300円
新旧約「聖書」(口語体 文語体)	270円
日曜学校用	
万人のよきおとずれ	100円
古代の使徒	100円
我等の標準聖典	100円
靈的成長(子供の日曜学校)	100円
新求道者のための福音の根本原則	25円
初等協会用教課書	150円
M I A 用	
信証講義	190円
完成への道	200円
演劇脚本集	50円
役員と指導者の手引	100円
スクエアダンスとフォークダンス	300円
スポーツの手引	25円
ゲームとその遊び方	60円
讚美歌	
末日聖徒讚美歌	290円
末日聖徒讚美歌抜萃	300円
子等は歌う	120円
(備考) 御注文は宣教師へ	

末日聖徒イエス・キリスト教会信仰簡条

(1956年8月校訂、承認)

一九五七年十月一日発行

編集人 高木富五郎

発行所

北極部 末日聖徒イエス・キリスト教会

東京都港区麻布広尾町十四

- 第 1 条 われらは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと聖霊とを信ず。
- 第 2 条 われらは、人は皆各々其身にてなしたる罪に対して罰を受け、アダムの咎に対して罰を受けざることを信ず。
- 第 3 条 われらは、キリストの贖罪により、すべての人類は、福音のおきてと儀式とを守ることによりて救われ得ると信ず。
- 第 4 条 われらは、福音の第一原則と儀式とは
 第1、主イエス・キリストを信ずる信仰
 第2、悔改め
 第3、罪の赦しを受くるために水に沈めらるるバプテスマ
 第4、聖霊の賜を授かるための按手礼
 なることを信ず。
- 第 5 条 われらは、福音を宣べ、且つその儀式を執り行うためには、啓示と、権威ある者の按手により、神によりて其任に召されねばならぬことを信ず。
- 第 6 条 われらは、教会には、初期の教会に在りたる同一の組織、すなわち使徒、予言者、監督、教師、祝福師等のあるべきことを信ず。
- 第 7 条 われらは、異言を語る力、予言する力、啓示、示現を受くる力、病を医す力、異言を積く力等の賜あることを信ず。
- 第 8 条 われらは、正確に翻訳されたる限り、聖書は神の御言葉なりと信ず。またモルモン経も神の御言葉なりと信ず。
- 第 9 条 われらは、すべて神のこれまでに啓示したまいしこと、すべて今啓示したもうことを信じ、なお今より後、神の王国について多くの偉大にして重要なことを啓示したもうことを信ず。
- 第 10 条 われらは、イスラエル人は、文字通りに四方より集合し、その十支族の元に立ちかえることを信ず。われらは、シオンはこの（アメリカ）大陸に建てられ、キリストは御自ら地上に王となりて、治めたまい、地球は元にあらたまりて樂園の栄えを受くることを信ず。
- 第 11 条 われらは、自らの良心に従い、全能なる神を礼拝する特権ありと主張す。また、われらは、すべての人々にこの特権を許し、何所なりとも、如何様なりとも、または何なりともこれを礼拝することを妨げず。
- 第 12 条 われらは、王、大統領、統治者、長官に従うべきを信じ、また法律を敬い、守り、支うべきを信ず。
- 第 13 条 われらは、正直、真実、貞潔、慈善、高德なるべきこと、およびすべての人に善を行うべきを信ず。まことにパウロの訓戒に従うというを得べく、われらはすべてのことを信じ、すべてのことを望む。すでに多くのことを堪え忍びたれば、あらゆることを堪え忍び得んことを望む。もし何にても、徳高きこと、好ましきこと、よき聞えあること、あるいは褒むべきことあらば、われらはこれらをたずねもとむるものなり。

ジョセフ・スミス